

授業科目(ナンバリング)	生活支援技術ⅣA (DD209)			担当教員	浦 秀美・久田 貴幸		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	選択 (介護必修)
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本科目は、尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための基礎技術や基礎知識を身につけることをねらいとする。具体的に、利用者の尊厳の保持の観点から、対象者の能力を活用・発揮し、自立に向けたその人の自立・自律を尊重し潜在能力を引き出す、入浴や清拭の意義や目的を理解し、利用者の状況に応じた安全で安楽にできる生活支援の基礎的な知識・技術を習得する。また、実践根拠について説明が出来る能力を身につける。本演習を受講することで、本学のディプロマポリシーでも示されている(介護福祉士としての)専門知識・技術を修得し、課題解決を図ることができるようになることもねらいとする。</p>							①④⑧⑨
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	入浴・清潔保持の意義や目的について理解し、説明することができる。				定期試験	50%	
情報収集、分析力	入浴・清潔の保持に援助が必要な利用者が抱える課題など情報を収集し分析を行い、課題解決のための思考・判断ができる。				課題レポート	10%	
コミュニケーション力	ホスピタリティの精神に基づいて、他の人の意見を傾聴するとともに、入浴・清潔保持に係る課題について自分の意見を明確にした上で、相互理解を図る議論に参加できる。				課題レポート 演習課題	10% 10%	
協働・課題解決力	自己実現を可能にする入浴・清拭に関する援助を適切に実施できる。				演習課題	20%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> <li>定期試験 (50%) : 筆記試験 (持ち込み不可) を行う。</li> <li>課題レポート (20%) : 介護実習室で演習に取り組んだ際は「生活支援技術演習レポート」様式にて作成し、その他については適宜書式等の指示を行う。未提出や提出遅れは減点の対象とする。</li> <li>演習課題 (30%) : ペアやグループで事例検討を行う。取り組み状況や役割遂行しているかで評価を行う。単元別小テストは 5 回目・10 回目で実施する。尚、発表や演習内容は、授業内にコメントの形でフィードバックを行う。</li> </ul>							
授業の概要							
<p>自立・自律に向けた、安全で心地よい入浴・清潔の保持の介護について、知識や技術を習得していく。具体的には、ICF 視点のアセスメントを行う際の着眼点、アセスメントのポイント、的確な技術や、入浴や清潔保持に関しての心身や日常生活への影響を考察する。演習を通して具体的な支援技術方法を学び知識も確認する (ディスカッションも行う)。授業は講義と演習にて行う。参考資料や演習手順等は随時プリントで補足を行う。演習レポートを作成することで、知識や技術の定着を図る。ゲストスピーカーからの講話から学ぶことも予定している。</p> <p>この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：医歯薬出版株式会社『新版 介護基礎学-高齢者自立支援の理論と実践』(2017)</p> <p>指定図書：医歯薬出版株式会社『新版 介護基礎学-高齢者自立支援の理論と実践』(2017)</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>本演習での入浴・清拭は、日頃の生活で当たり前のよう行っている行為です。介助・支援が必要な人はどこに困難を抱えているのかを学びながら、安全で安心できる支援方法について、学んで欲しいです。入浴・清拭を行う際に身体を密着する、肌を露出させるなど、プライバシーに関わることを取り扱うため、今まで以上に相手が不快に思わない立ち振る舞いや姿勢について考えて実践し、授業に臨むことを期待しています。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション 寝床整備の技法①	本科目の概要などの授業をイメージする。 ベッドメイキングとシーツ交換 その1 (浦)	予習：「シラバス」による 授業内容の確認 復習：シーツ交換手順確認
2	生活支援技術ⅡABの復習 自立に向けた移動の介護	ベッドメイキングとシーツ交換 その2 移動の意義と目的、移動に関する利用者のアセスメント (ICFの視点) の方法 (浦)	予習：ボディメカニクスの 要点まとめ 復習：資料プリントを読む
3	観察の技法①	入浴・清拭を行うか否かの判断を行うための観察、バイタルサインの基礎知識について確認を行う。(浦)	予習：バイタルサインの種 類を調べておく
4	観察の技法②	入浴・清拭を行うか否かの判断を行うための観察、バイタルサインの基礎知識・測定方法 (体温・血圧・脈拍) の留意点に基づき再確認・実践する。(浦)	予習：自分自身の平均体 温・脈拍を測定しておく
5	自立に向けた入浴・清潔保持 の介護①	入浴の意義と目的、入浴に関する利用者のアセスメント (ICFの視点) について理解する。(浦) (ゲストスピーカー・実務家)	予習：自分自身の入浴方法 を整理しておく 復習：アセスメント項目整 理
6	自立に向けた入浴・清潔保持 の介護②	爽快感、安楽を支える介護の工夫について学ぶ。 安全で的確な入浴・清潔保持の介助の技法 (足浴・手 浴) について学ぶ。(浦)	予習：足浴・手浴とは何か 調べる
7	自立に向けた入浴・清潔保持 の介護③	爽快感をもらし、安楽を支える介護の工夫について 学び、安全・的確な入浴・清潔保持の介助の技法 (洗 髪・洗身) について学ぶ。(浦)	予習：足浴・手浴の手順を 確認する
8	自立に向けた入浴・清潔保持 の介護④	利用者の状態・状況に応じた入浴・清潔保持の介助の 留意点と他の職種の役割、協働について学ぶ。(浦)	予習：入浴以外の清潔方法 を考える
9	自立に向けた入浴・清潔保持 の介護⑤ 福祉用具の意義と活用	安全・的確な入浴・清潔保持の介助の技法について、 入浴手順や入浴に関する福祉用具確認を行う。(浦)	復習：資料プリントにて利 用者に合った入浴手順や 福祉用具を考える
10	自立に向けた入浴・清潔保持 の介護⑥ 福祉用具の意義と活用	安全・的確な入浴・清潔保持の介助の技法について、 入浴・清拭手順や福祉用具を確認する。(浦) (ゲストスピーカー・実務家)	予習：入浴もしくは清拭支 援の手順を確認する
11 12	自立に向けた入浴・清潔保持 の介護⑦・⑧	安全・的確な入浴・清潔保持の介助の技法 (入浴・シ ャワー浴) について、男女別で実践する。(男子学生： 久田、女子学生：浦)	復習：演習レポート作成
13 14	自立に向けた入浴・清潔保持 の介護⑧・⑨	安全・的確な入浴・清潔保持の介助の技法 (全身清拭・ 洗髪・陰部洗浄) について、男女別で実践する。(男 子学生：久田、女子学生：浦)	復習：演習レポート作成
15	前期のまとめ	対象者の能力を活用・発揮し、自立に向けた実践の根 拠について、観察の技法及び自立に向けた入浴・清潔 保持の介護のまとめを行う。	復習：定期試験に向けてこ れまで学んだテキスト・資 料内容を振り返る
16	定期試験		